

新型コロナウイルス感染症対策に係る CSO 等支援のための緊急アンケート【佐賀県内】
- 最終調査報告書 -

■2020年（令和2年）4月27日報告

■実施団体：公益財団法人佐賀未来創造基金

■アンケート概要

◎目的：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大によるCSO団体が2月～4月現在で受けている影響を可視化し、社会に発信することを通して、お互いの不安や工夫を共有し、必要な対話や国や県への支援、連携につなげることを目的に行った。

◎実施方法：当財団の会員、助成先をはじめ、県内中間支援組織の会員・支援先をはじめ所轄庁を通じての周知及びWEBサイト・SNSなどを通じて広報を実施

◎実施期間：2020年（令和2年）4月3日から17日まで

◎回答方法：webフォーム入力、回答をFAX、回答をメール送信

◎回答数：199

任意団体	NPO法人	一般/公益 社団法人	一般/公益 財団法人	その他	無回答
71	80	2	15	28	3

◎主な活動地域

佐賀県全域 . . . 56団体（28.1%）
 県東部（鳥栖市、神埼市など） . . . 27団体（13.6%）
 県中部（佐賀市、小城市、多久市など） . . . 77団体（38.7%）
 県西部（唐津市、伊万里市など） . . . 15団体（7.5%）
 県南部（鹿島市、嬉野市、武雄市など） . . . 23団体（11.6%）
 未記入 . . . 1団体（0.5%）

◎主な活動分野

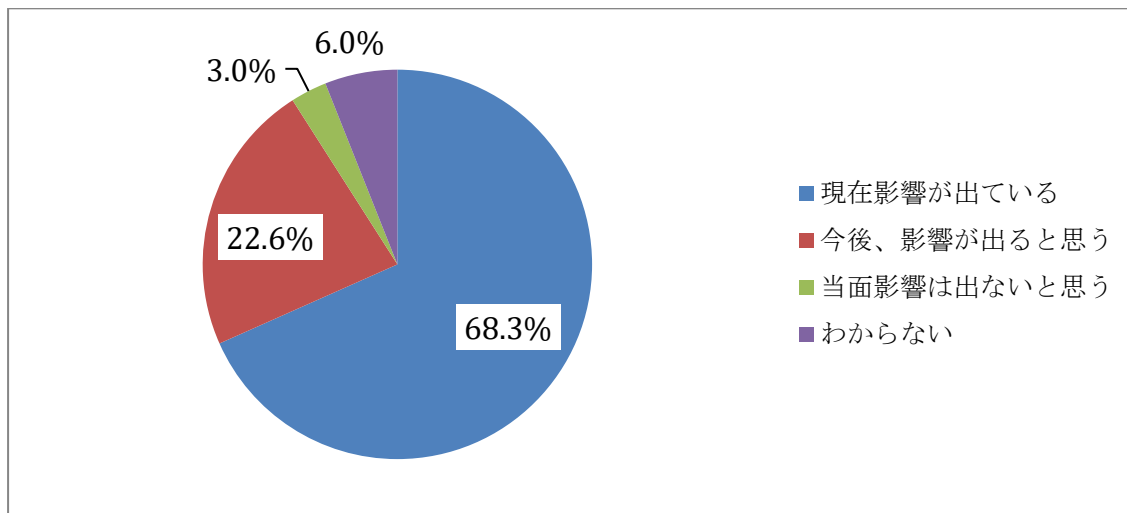
健康と福祉 60団体（30.2%）/災害・復興支援 12団体（6.0%）/社会教育 6団体（3.0%）
 文化・芸術・スポーツ 22団体（11.1%）/子育て・教育 31団体（15.6%）
 まちづくり・観光 24団体（12.1%）/環境保全 11団体（5.5%）
 人権・平和・国際協力 7団体（3.5%）/産業・労働・科学技術 4団体（2.0%）
 暮らしの安全 2団体（1.0%）/NPO・地域づくり支援 19団体（9.5%）無回答 1団体（0.5%）

<結果要約>

- ・おおよそ **90%を超えるCSO影響が経営上の出ると**回答している。
- ・現在影響が出ていると答えたCSOは約68%で、今後影響が出ると考えるCSOが約31%
- ・経済損失を受けた団体は、**平均被害額400万円以上、最高被害額1,800万円**の被害状況
- ・理事会・総会開催が難しく**機関決定や事業計画や勤務体系等の長期的判断や短期的状況判断**などがしづらい状況がある
- ・活動を実施するにあたっての**マスクや消毒液などの衛生管理に不安**がある団体が多い
- ・資金支援の要望とともに、**各種支援制度に関する適切な情報提供を望む声が多く**CSOに情報が届いていないと見られる

■アンケート集計とまとめ

●1. Q2 新型コロナウイルス感染拡大により「活動」の支援者・利用者に影響が生じていますか。
※未記入含まず



●1-2. Q2[1 現在影響が出ている]を選択された方にお尋ねします。具体的な影響の内容について教えてください。)

※活動分野ごとに回答を列記（文面はいただいた通りに掲載。以下同様）

【健康と福祉】

- ・ [利用者]活動（特に外出）できる範囲が限定されつつある。また、感染の不安による利用キャンセルが生じている。
[支援者]スタッフの家族のうち、県外在住の子などが帰省してくることにより、出勤が難しくなっている者が生じている。また、県外から帰省してきた者に感染者が出たことや日々感染者が増加していることから、不安感が強くなっている者が増えている。
- ・ 利用者がコロナウイルスのクラスターが発生した近畿地方へ行っていた為、2週間の自宅待機をさせている。
- ・ 就労支援の一環として野菜等の巡回販売を行っているが、販売に行っても買いに出てくる人か減って、売り上げが低下している
- ・ 日中活動に沢山の制限が出ている。生産活動や販売活動も全面中止している
- ・ イベント・セミナーの中止で患者・家族へ情報提供機会が減少。
これに伴う収入減がかなり痛い。
- ・ 移動サービスが町内に発生したコロナ患者の為、現在休業中
- ・ 活動の自粛とそれに伴う収入の減少、それに伴う施設維持費の困窮
- ・ 連日のニュースで心配になられ、当面ご利用をおやすみされている方がいる。
バスバイク、プール等の活動休止
- ・ 主な活動の自粛を余儀なくされている。特に集会が出来ない
- ・ 県内の団体さんが、外部との接触禁止に伴い面談の中止や、関係者会議の中止など相対での接触にまつわる内容が、日々中止・延期になっている
- ・ サービス利用者がサービスを受けられない。

- ・相談業務が、面談形式でできない。電話相談が主になっている。イベント、講習会ができない。
- ・感染を恐れてしばらく休む利用者が出てきた・利用者の方が楽しみにしていたイベント（サーカス・花見など）ができなくなり残念がっている
- ・利用者さんの受診自粛、面会不可
- ・デイサービスへの通所利用を控えている
- ・入居者の外出が自由にできない。集団での活動が怖いなど
- ・利用者のうち基礎疾患を持つ方の利用控え
- ・利用者職員のマスク、消毒備蓄不足による行動範囲の縮小 ウイルス感染の恐怖 イベント等の中止による作業収入減少による工賃の支給減少等 利用者さんの就労
- ・運行サービスは極力休んでいます。持病の薬取りのみ対応。
- ・学校休校などの影響で利用の増加、激減
両方があります。
- ・休校になり、放課後等デイサービス他児童の福祉サービスの利用ニーズが高まりました。そのため、スタッフの確保が大変でした。配置スタッフの疲れも見えて、長期になるとスタッフの疲弊が懸念されます。
- ・子どもの居場所として開所時間の拡大要請を受けた職員の疲弊、三密を避ける利用自粛による収入源、不要不急の外出自粛による活動制限、など
- ・3月4月の定例会が中止になり3月の学生さんとのお別れ会も出来なかった。悩みを持つ親や子ども達の支援が出来ない。5月は総会ですが中止になりました。
- ・介護、障がい、保育事業・・・感染への対策業務
- ・場を使えないのと感染を考えると何もできないでいる
- ・教室が開催中止となり、参加者の健康維持の減少、コミュニケーション不足に影響
- ・活動会員、利用会員の感染予防対策
- ・がんサロンは開催しているものの、4月から内部のスタッフの研修会に切り替えている。小中高校への医師やがん体験者の派遣は、例年どおり2学期以降に予定しているが、実現できるか不透明。近く県教委とこの件について協議する。出版は外部ライター（東京）による山口知事の取材を秘書課に申し入れているが、コロナの影響でまだ実現できていない。
- ・来所にての相談の予約キャンセルや支援会議の延期、こちらからの訪問相談受付の中止、専門家との面談延期等。施設見学などの延期やキャンセル

【災害・復興支援】

- ・駆けつけてくれるボランティアさんの受け入れを休止しているため、地域のニーズに対応が難しい。
また、新型コロナウイルスの関係から、地域の方々に訪問するのもあまり時間をかけることもできず、不用意な訪問も避けなければならず、本来すべき事業が進まない状況。
- ・ワークショップの開催が思うようにできなくなった。
- ・会計報告時であるが確認の会合が出来ない。総会が出来ないため、あらゆる確認事項がメールなどでしか確認が出来ません。
- ・団体としての活動自粛、制限
- ・イベント、訪問活動、講座などの中止・自粛により広報啓発活動や資金調達ができない。
- ・クロスロードの開催支援を受けたイベントの中止

- ・被災地でのサロンなどの地域活動ほか、集まりごとができないので、戸別の被災者さんの問題が把握しにくい。乳児院、里親家庭、学校、塾、グループホーム、戸別訪問支援を続けているボランティアグループに至るまでマスクが完全に不足している。入学式でさえ、生徒と教師のぶんのマスクはあるが、父兄は自分で用意しろと言われ、用意しようにも売ってない、父子家庭では縫ってくれる人もいないといわれました。保育園の先生や、グループホームのかたからも、マスクや使い捨て手袋や消毒液がないといわれます。預ける方も不安だし、職員も自衛できません。手作りマスクを縫って支援していたが、材料(ガーゼ・サラシ・マスク用ゴム、ウーリースピンテープ)など、材料が手に入らずまた、高騰していてボランティアグループだけで継続できない。材料や購入費を支援いただけたら、まだ長く続きそうなマスク不足に、使い捨てマスクよりも長く使えるマスクを支援でつくるボランティアさんもいる(手作りマスクも買えば500円以上、材料が高いから、個人購入ではコスパが…)

【社会教育】

- ・当団体が開催予定だった6月の武雄市大会、8月の太良町大会、11月佐賀市大会、11月白石大会、12月伊万里市大会が延期や延期濃厚となり今年度の活動資金調達が不可能となりました。その為、来年度春に法人化を目指して昨年9月から有償スタッフを雇用したり準備をしてきましたが資金が底をつきかなり深刻化しています。また3月予定していた14件の学校での出張授業の中止や4月からの7月までの1学期、計37件の延期や中止が決定しました。2学期以降もどうなるのかわかりません。逆に個別相談依頼は例年より多く寄せられており、活動を継続するのか休止するのか決断を迫られています。
- ・学校の休校 授業形態がwebへ 講演会など多人数で集まることの回避
- ・開催中止
- ・予定どおり開催している日本語教室の受講者が減少している。三密を避けるために更なる配慮をしている。マスクも必須。

【文化・芸術・スポーツ】

- ・陶器市の延期、飲食店からの発注ストップ、イベント中止などで事業者さんの売上げが大幅減
- ・3月に公演予定していた舞台を8月に変更。4月から予定していた練習が開始できません。会費の減収、新たなポスターチラシ等製作。会場費の新たな経費。チケット売上げの減少
- ・6/1.2に開催予定が出来なくなりました。チラシ代金、事務費、通信費等6万円程が私個人の実費負担となりました。
- ・イベント出演のキャンセル
- ・活動の自粛による子どもたちの居場所・運動の機会が奪われてる
- ・イベントを実施できないためイベント支援者は活動ができず、またイベント利用者は参加できない状態です。
- ・団体の練習が3月以来全くできない状況
- ・事業の延期、中止
- ・運営している映画館の来場者減少・予定していたイベントの中止
- ・練習会場が使えなくなった。4月末に予定していた演奏会が行えなくなった。

- ・ 毎回 20 名程度集合して練習しているので 3 月より練習を休んでいます。
- ・ 2 月下旬以降、拠点施設が使えず活動停止。4 月は自粛し、活動を休止している。
- ・ 公共の施設を使用し活動しているため施設が使用禁止になると活動ができなくなる。
- ・ 合同練習や対外試合の自粛。
- ・ 感染防止対策として、「人と人との接触を避ける」、「一度に大人数が集まって人が密集する活動とならないよう配慮する」、「体育館、教室等の屋内での活動については、こまめな喚起を心がける」等の対策を徹底した上で活動可能。
- ・ 団体練習ができない。（防音施設で団体での練習の必要があるため）演奏イベント（定期演奏会など）の延期。団体活動のため、クラスターを防ぐために活動休止中で、活動再開の目処がたたない。
- ・ 年度初めの会員募集中断

【子育て・教育】

- ・ 今年度セミナーが開催できない
- ・ 子どもたちの行事の中止や規模縮小・省略を余儀なくされている
- ・ 教室の中止
- ・ 3 月から桜楽館多目的ホールでの催物中止となりサロン・なかよし広場も中止小城市ボランティア協議会研修などすべての行事も中止となる
- ・ 事務所の閉局（4 月 13 日からゴールデンウィーク明けまで 予定）
- ・ 一人親支援の学習会が休みになり、利用者が少なくなった。せふりのこども食堂も、現在市外の人利用禁止になったので、発達障害児のデイケアの団体さんは来れないし、現在の状況では自粛せざるをえない。
- ・ 子ども食堂、不登校・発達障害の親の会が中止になった。
- ・ グループでの支援はお休みしたが、個別対応はできた。
- ・ 登降園の基準や行事の対応。マスク、消毒用アルコール、トイレットペーパーの購入
- ・ 居場所の拠点場所に制限が出たので、場所を使って開催できなかつたり、飲食が無理になつたり、子どもの出入りが制限されたり、開催するための備品（消毒液、マスクなど）が手に入らなかつたり。
- ・ 子どもたちだけでなく、大人も室内空間での過ごし方に過敏になっており、利用を控える傾向にある。文庫としても、アルコール消毒液を準備している。
- ・ 町民 施設休館の為、産後ケアが受けられない
- ・ 予定されていた会を開くことができず、活動がストップしている。また、放課後児童クラブは、学校休校中でも開いていたため、保護者からの不安の声は多くよせられた。また、毎日のお弁当やおやつにも、保護者の負担は大きい。
働き方によっては、超勤もあった。
- ・ 居場所への児童の来所がストップしている。施設を退所した若者がアルバイトが臨時休業になり、金銭的に行き詰りそう。
- ・ 自粛しているため、子どもたちに体を動かせる場を提供できていません。自粛しているため、指導者の収入減になっている”
- ・ イベント中止により、開催者や参加者に影響がでている
- ・ 無料相談を月 2 回実施しています。相談したいお母さん方が、相談に来れずに開催を心待ちにしておられます。

- ・居場所に来た子どもの数は少なめでした。ずっと家にこもっていたという声をたくさん聞きました。心身の変調がないか心配です。また、保護者の方も精神的に不安定になっている声をたくさん聞きました。DV や虐待が起きたら増えていないでしょうか？心配です。
- ・学校休業における利用者の利用が、午前中から1日中の活動となり、外活動の制限もあるなか、ストレス増加傾向
- ・ガン治療中で、免疫抑制剤も飲んでおり、コロナ感染が怖くて買い物にも行きにくい。ガン治療で通院している病院が福岡市にあり、通院が怖い、検査もあり、怯えながら仕方なく通院している。今後は遠隔診療を望む。家人の仕事がテレワークできない。不況により仕事が激減し、収入が減ることは間違いない。休校により、元気すぎる子どもたちの遊び相手、昼食作りに疲弊している。また、水道光熱費、食費、本購入費など家計を逼迫している。マスクがない。子供はすぐ失くすので、子供用がほしい。
- ・クラブ：物資不足と支援員の不安・疲労の蓄積 子育て世帯：物資不足、終わりの見えない緊張の持続による不安
- ・（支援者）：新型コロナウイルス感染拡大防止対策として3月～4月一杯教室を休止している。公民館の使用条件が主催者側の判断となり決まったガイドラインもなく安全性を担保できないから。（利用者）：7月の日本語検定能力試験の準備に支障が出ている。”
- ・居場所への来場者が減っている。その一方で退所者の生活苦などの相談が増えている。

【まちづくり・観光】

- ・公共施設として春陽堂（相談窓口）、お試し住宅が閉鎖になっている。
 - 空き家の家主、利活用希望者、移住希望者が相談しづらくなったり、実際に施設利用ができなくなったりご不便をおかけしている。
 - ・自主イベント（うちやま百貨店）は中止となった→地域の商店街の方々や出店者に対して貢献できなかった（集客ができなかった、出店者たちの販売機会が減ってしまった。）委託イベントについては現地開催から配信に変更した→料理等のキャンセル発生→配信にすることで、交流の機会は減ってしまった
- ・皆さんにとって、空き家を探したり売ったり考える余裕がない。しばらく、空き家活用が滞る可能性がある。
- ・人の集まりが出来なくなる。
- ・活動は人的交流を通して行うので、イベントの中止を決断。
 - 会員や連携団体との話し合い会食など一堂に会する行事の中止。
- ・①海外からのお客様で小城公園の桜の満開時期にランチ等の予約が入っていましたが、2月の中旬から続々とすべてキャンセルが出ました。
 - ②桜の時期は例年よりもかなり少ないお客様でした。昨年2019年は3/16（土）～4/7（日）570名。今年2020年は3/18（水）～4/5（日）325名。カフェの売り上げは減っております。
 - ③3/31に佐賀市からコロナの発症が出たと報道された次の日の4/1はお客様ゼロ。桜は満開なのに、今まで5年間営業した中でゼロというのは初めてでした。
 - ④小城鍋島家は92歳のおばあちゃんの見守りがメインなのでこれ以上お店を開けておくと不特定多数の方の受け入れにコロナの保持者がいるかもしれないので怖い。
 - ⑤お客様のどこから来たのか？連絡先を記載出来るメモを作成しお客様に記載して頂いている。
 - ⑥小城鍋島家でイベント企画や、会議の場としてご利用の方のキャンセル。

⑦団体で運営しており舞の部門でのレッスン、イベントのキャンセル。”

- ・ 3月開催予定の「鹿島酒蔵ツーリズム 2020」が中止。飲食店さんでは団体客が減り、日本酒の消費も減っているため酒蔵さんの売上減。
- ・ 春の蔵開きが現在延期中で影響有り。夏秋へ向けてのイベント開催の不安はある。
- ・ 4月26日（日）に第7回ムツゴロウ王国芦刈ふれあい祭を開催の予定でポスター・チラシまで作っていたが、コロナ拡大の影響を慮り中止とした。
- ・ 予定していた歴史的建造物調査の報告会を中止
- ・ 勉強会開催を中止している
- ・ 来園者の減少、イベントの中止
- ・ 3月以降開催を見合わせている。5月も開催中止が決定。
- ・ イベントなどのキャンセルによる利用の減少
- ・ 古湯温泉全般の宿が自粛要請により、キャンセルが相次いでおり、雇用の確保が難しくなっている。
- ・ 国内・海外問わず、観光客の激減
- ・ ○保護動物の譲渡活動「譲渡会」が開催できない（ボランティアではない一般の犬猫の保護主からの相談が解決できない。）○寄付や募金の減少
- ・ バス・タクシー事業者の大幅な減収
令和2年3月期収入 乗合バス（対前年▲30%） 貸切バス（同▲80%） タクシー（同▲50%）
- ・ まだ感染者こそ出ていないが、世界的に急速に蔓延が進む中、基本、活動を控え情報収集を図り、LINEなどで役員を中心に30人が県内情報を共有し計画中の新年度事業の実施や中止などを判断している。

【環境保全】

- ・ ①学校（年度末の地域へのお礼の活動、春の遠足、修学旅行）や年配のボランティア団体が松葉かきに参加をさせていただいていたが現在活動が中止となっていて、当会の現地活動サポートスタッフの仕事が激減している。パートタイムなので、何か別の仕事を考え出さなくてはとしているところ。②講演会・総会等が中止になっているため、講師依頼が春先は多かったが、なくなっているため講師謝金収入が見込めない。
- ・ イベント・研修会等の中止
- ・ イベント参加者、協働団体の会員等の参加が困難
- ・ 福岡県の緊急事態宣言により、福岡県から来る調査協力者が来れなくなるなど、マンパワー不足が徐々に出てきた。
- ・ 2月、3月に企画していたイベントを中止しました。また、さが水ものがたり館の管理者である国土交通省からの指示により、さが水ものがたり館を休館とし、一切の活動を自粛しています。
- ・ 近年共に植樹活動と一緒にやってきた佐賀大学生さんが参加できなかった。
- ・ 開院が出来ない 何時から修理受付いただけますか？の問い合わせが有りますが、いつからとは言えない状態です。

【人権・平和・国際協力】

- ・ コンサルや講師事業の中止や延期がこれまで4件程度あった。

- ・ ①会議を開催できないので、事業推進を計画どおりにできない ②パラオへの高校生派遣研修ができなくなり中止した ③スリランカとの交流事業が中断したままである
- ・ 海外との行き来が制限されていることに関連して、海外出張に行けない採用予定の外国人従業員が日本に来れない母国に帰れなくなり、持病の薬が不足してしまう航空券が高騰しており（通常の10倍程度）帰国できないが、在留期限が来てしまう勤務先を解雇された。アルバイトがなくなってしまった。
日本人と外国人の交流や情報交換の場所にもなっている日本語教室が開催できなくなっており、外国人住民に情報が入らない。日本語学習の機会がなくなってしまった。
- ・ 日本国内では、イベントの中止、渉外活動の中断。国外では、通常の支援活動の休止とともに対象者の生活が不安定化。コロナウイルス感染予防に対するニーズが急増。
- ・ 県内で開催予定であるイベントの延期・中止
- ・ ミャンマー現地スタッフの撤収

【産業・労働・科学技術】

- ・ 受託した事業の4月活動ができず、経費負担のみ
- ・ 地域内観光宿泊客の減少にともなう魚介類の販売不振及び魚価の低迷による漁家経営悪化
- ・ 現在、行っている無人販売所の客が減っている

【暮らしの安心】

- ・ 曾根崎の獅子舞コロナウイルスの影響により中止

【NPO・地域づくり支援】

- ・ 施設の利用収入がマイナス100万円となった。どれほどの補填があるか未定。
人材育成（研修・講座）や交流連携の開催を中止や延期とするが、延期になった研修についても当初の内容で実施が難しいだろう。
- ・ 行政からの委託や補助事業、自主事業などの事業遂行の滞りと助成先の事業の滞りなど
- ・ 住宅設備の入手困難、活動・イベントの自粛、中止、事務所備品の在庫確保
- ・ 会議室利用料及び印刷代等の減収により職員給与支給分が不足したので本部から補填した。
- ・ 市民活動センターの開館時間短縮と会議室の利用不可、並びに5人以上での30分以上活動の禁止で、利用者の活動がままならない。
- ・ 指定管理施設の休館など
- ・ 介護予防運動に参加されている方々が、新型コロナウイルス感染が怖いということで取り敢えず4月いっぱい活動を休止されている。
- ・ 市民活動センターの利用者減、団体の例会、総会を控えている。
- ・ ファシリテーター依頼のキャンセル
- ・ そもそも勉強会や会議が開きにくくなった。また、様々な活動団体の活動も停止しているため、依頼そのものが停止した。
- ・ 中心市街地賑わい再生イベントかんざき櫛田の市中止（規模縮小）公共施設の利用制限によるCSOの活動低下
- ・ 業務の一つである清掃業務において顧客が休業されたために、仕事が減少した。
- ・ サロン・カフェが3月から休業しているため利用者様からの電話がよくかかる（寂しい）
- ・ パークゴルフ場利用者増加

●1-3. Q2[2 今後影響があると思う]を選択された方にお尋ねします。どんな影響が考えられますか？

※活動分野ごとに回答を列記

【健康と福祉】

- ・ 県内全域への拡大
- ・ 感染が広がると福祉サービスの提供を限定または中止せざるを得ない。(通所サービスの停止、外出支援の内容の限定など=現在も実施中)
スタッフに感染者が出て支援をできるスタッフが限られてくる。
法律で定められた人員配置を満たすことができなくなる。
- ・ デイサービスが利用できなくなると減収があるのではないかと、又、職員の確保ができなくなるのではとの心配があります。
- ・ 万が一関係者が感染者となった場合全サービスを一時停止しなくてはならず、利用者、その家族、働く職員全てにとって生活に大きな影響がある。
- ・ 基礎疾患をお持ちの方の感染リスク
- ・ マスクや消毒液などの不足により、感染リスクが高まる可能性が出てくる
- ・ マスク、消毒液などの不足も懸念されます。
- ・ ご自宅から通われている利用者の利用の停止をお願いするかもしれない
- ・ 感染の蔓延に伴い、デイサービス業務の利用者の自粛など
- ・ 感染者が県内で増加してくれば活動を休止せざるを得ない
- ・ 面談による支援活動(直接的な支援活動)
- ・ 利用者さんで、迎え時に発熱(37.5度以上)があった場合は、利用をお断りせざるを得ないが、実際、家族がいるとことばかりではないし、訪問系のサービスで支援することになるが、すぐに対応できない可能性がある。現在のところ該当者はいない。
また、職員に対しても発熱が見られる場合や濃厚接触者となった場合、勤務できないが、すぐに変わりの職員が、手配できない可能性がある。
- ・ 病院・薬局や介護施設への訪問制限の拡大
- ・ デイサービス利用者の減少(介護・障がい共)
- ・ 県内の感染拡大し事業所近辺の地区で感染確認された時に営業を検討せざるえない状況になる恐れがある
- ・ 職員の感染により施設でのクラスター発生
- ・ 利用者が生産した商品が売れなくなる、売る場所が減るかもしれない。それにより工賃が減っていく。
- ・ スタッフの感染による人手不足や利用者感染による混乱と経営難
- ・ 事業所の運営ができなくなることも考えられる
- ・ 利用者様・職員及びその家族等関係者の感染 感染が確認されたら休業、閉鎖もありうる
- ・ 介護利用者及びホームヘルパーへの感染が生ずれば介護事業所を閉鎖せざるを得ない。
- ・ 施設の運営に影響する可能性があります
- ・ 3密にあたるポッチャの体験会が開けなくなりそう。
- ・ 障がい児者、障がい児者のご家族の情報交換や交流の場がなくなり、孤立化する。また、障がい者スポーツが出来ないとなると、運動不足やストレスが溜まる。

【災害・復興支援】

- ・ 棚が欲しい方の生活環境改善に時間がかかる。いつ開催できるか目処が立たない。また、訪問の場合、こちらが気をつけていても、相手が不安に思われることもあるのではという気持ちもあり憚られるようになると思う。
- ・ マスク、衛生用品の不足は、感染が広まったときに致命的。乳児院や、児童養護施設、グループホーム、保育園、塾などでの感染に対応できない
こどもや乳児用のマスクは危機的に手に入らない
- ・ 現在の状況が続くことで、さらに資金調達が厳しくなってくるのが予想され、また、県内でも災害救助犬・セラピードッグのイベント、ふれあい（本部兵庫県より派遣）を楽しみにされている施設などへの訪問ができず交流も遠ざかってしまう。

【社会教育】

- ・ 更に感染者が増えることが予想される。そうなってくると感染の恐怖を感じて県内で実施している講座・勉強会への参加者が減少し、普及活動がやりにくくなる。
- ・ 地域の講座と学校訪問

【文化・芸術・スポーツ】

- ・ このまま、コロナウイルスが感染に伴い、祭りが開催できなくなる。
- ・ スペシャルオリンピックス日本からの要請により、5月末までのスポーツ活動の自粛
- ・ イベントの延期、自粛にて事業展開できない。
- ・ 開催か否か今後の判断する
- ・ 練習会場が使用できない。借りられない。
- ・ 会員の減による運営資金未達

【子育て・教育】

- ・ 研修事業の中止、事務員や作業員などの自宅待機による作業遅延
- ・ 職員、在園児、保護者に新型コロナウイルス感染が確認された場合は一時休業も視野に判断をしていかなければいけない為
- ・ 感染者が出た場合、休園できるのか、休園できない場合、どこまでの範囲（医療従事者・ひとり親家庭等）での受け入れとなるのかが不明。
- ・ 園内で新型コロナウイルスへの感染が確認された場合、休園等の措置をとることになります。そのような状況になると、子どもの預かり先が確保できなくなるのではないかと考えられます。
- ・ マスク不足、出入り口での手指消毒用アルコール不足が不安です。
子ども保育する中で、武漢ウイルスそのものがよくわかっていないこと、治療法、治療薬がない中での保育は、職員は不安で仕方がありません。また、施設で感染者が出た場合も職員への影響、利用者の保護者への影響が不安です。感染者が出て誰も悪くないのに世間の風潮も含めみんな不安です。
- ・ 梱包・配送やフードバンク活動での人の集まりや、個別の家庭訪問に自粛などの影響がでた場合。
- ・ 蔓延期の活動場所の確保

【まちづくり・観光】

- ・安心安全が確保出来ないと、活動の参加が減る
- ・感染拡大の状況に応じて、10月末の事業開催を検討する
- ・チャレンジショップやアンテナショップへの影響と事業自粛
- ・鍋島家のおばあちゃんに影響がある
- ・宿の営業を続ける事により、感染者を迎え入れる可能性もあり、スタッフが出勤を拒む傾向が出てくる可能性もある。また、感染者が宿で出た場合の対処法など命に関わる事が招いた時の保証なども不安。
- ・催事の開催中止、集客数の減、売り上げの減少、補助金の減額など

【環境保全】

- ・弊団体の活動は、密閉、密集、密接の3密の活動ではありませんので、普段の活動はこれまで通り実施していますが、第1四半期のイベントや育林市民力養成講座を中止しました。イベント参加者や受講生に福岡県在住者が多いので、万が一のためです。
- ・総会、講座などの室内行事
- ・総会等の開催延期や中止、イベントの開催ができるか未確定である点

【人権・平和・国際協力】

- ・日本語教室の活動できない期間が長く続くことにより、団体のメンバーがバラバラになってしまうのではないかと

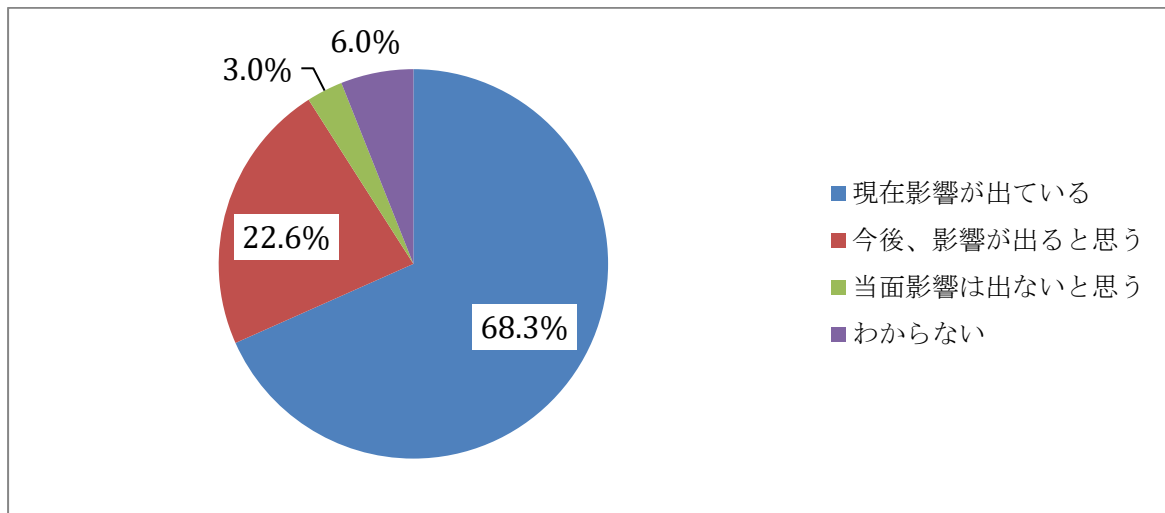
【産業・労働・科学技術】

- ・佐賀県は中小企業が多く、これから本格的に経営が厳しくなってくることが予想される。労働組合の目的は、「雇用を守る」、「生活を守る」という使命があり、今回の影響がどのように波及してくるか不安は大きい。

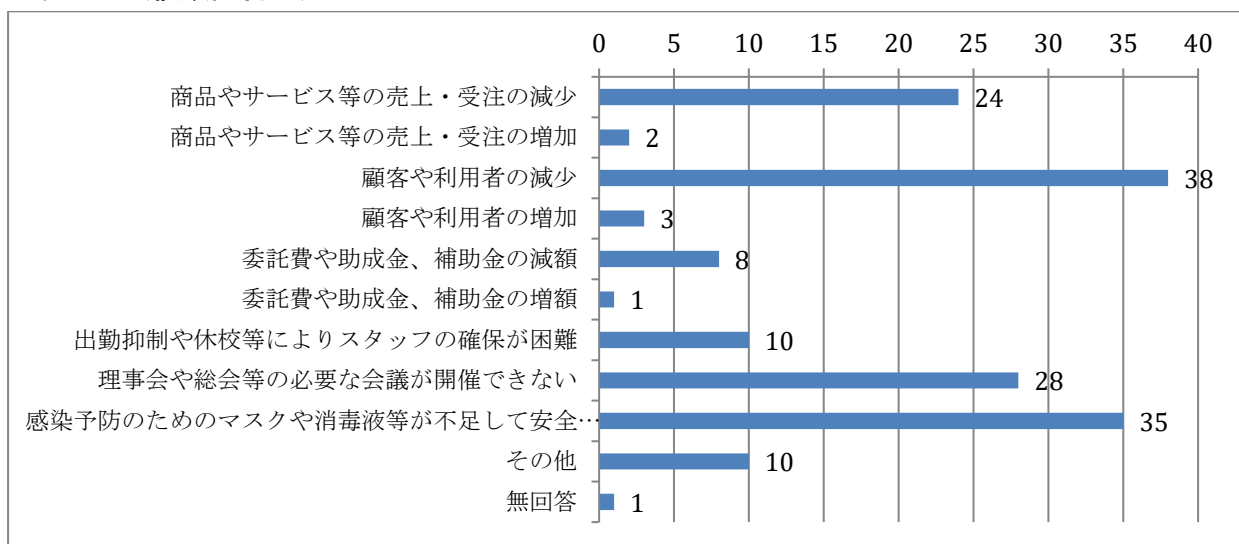
【NPO・地域づくり支援】

- ・団体活動の停滞、イベント、講座中止で講師の収入減。指定管理等では人員削減の可能性あり。環境活動等は助成金で財源確保出来たところあり。
- ・総会開催の延期
- ・高齢者の体調不良や認知症の増加
- ・直接的支援
- ・マスクは個人が準備することになっているが、購入できない。事業所で使用するアルコール消手指消毒液も手に入らない。指定管理者をしている施設では利用料が少ない状況が続けば、給与支払い資金が足りない状況が考えられる。本部からの補填を考えなければならないが、本部には資金がない。
- ・助成金を活用したイベント開催の延期、中止に伴う助成金の返金等

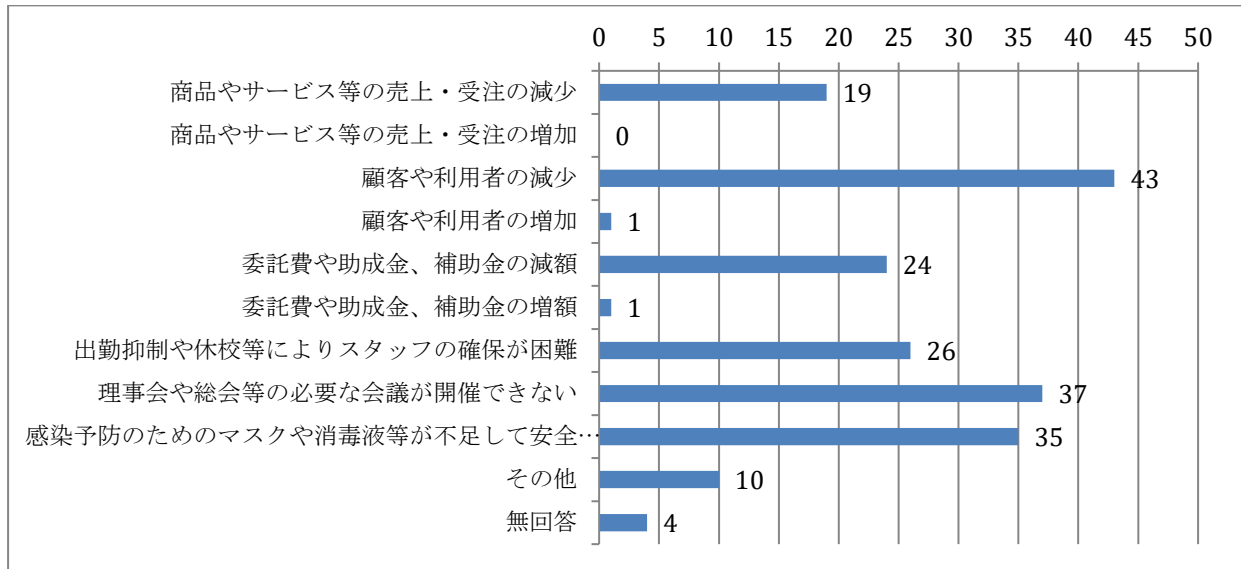
●2 新型コロナウイルスの感染拡大により「経営」に影響はありますか。



●2-2. Q3 で「1 現在影響が出ている」を選択された方にお尋ねします。どんな影響が考えられますか？（複数回答可）



●2-2.Q3で「2 今後影響が出ると思う」を選択された方にお尋ねします。どんな影響が考えられますか？（複数回答可）



●2-3.Q3で「1・3・5」を選択された方その見込額を教えてください。

【健康・福祉】 10万円（1件） 15万円（1件） 20万円（1件） 25万円（2件）
30万円（3件） 50万円（3件）

（その他） ・就労売上で15万 ・訓練等給付費30万
・6月末までに500万円の収入減
・このままの状態では、来年6月末までに1,800万円の減収見込み

【災害・復興支援】 1ヶ月に2万円位（1件）

【社会教育】 1,200万円（1件）

【文化・芸術・スポーツ】 10万円（2件） 70万円（1件） 150万円（1件）
500万円（1件）

【子育て・教育】 2千円（1件） 10万円（1件） 50万円（2件） 100万円（1件）

【まちづくり・観光】 5万円（1件） 3月だけで30万円（1件） 月500万円（1件）
（その他） ・直接販売は行っていないので影響はないが観光客は激減

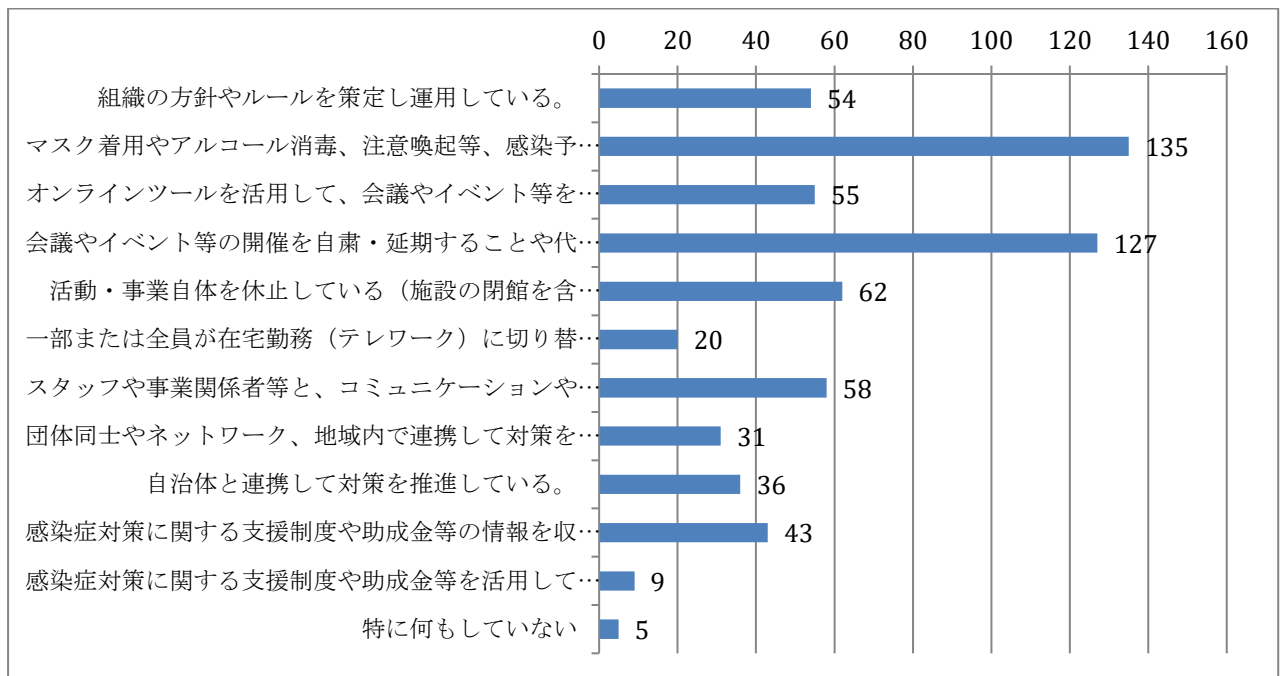
【環境保全】 61万円（1件）
（その他） ・現時点で被害額は分かりません

【産業・労働・科学技術】 100万円（1件）

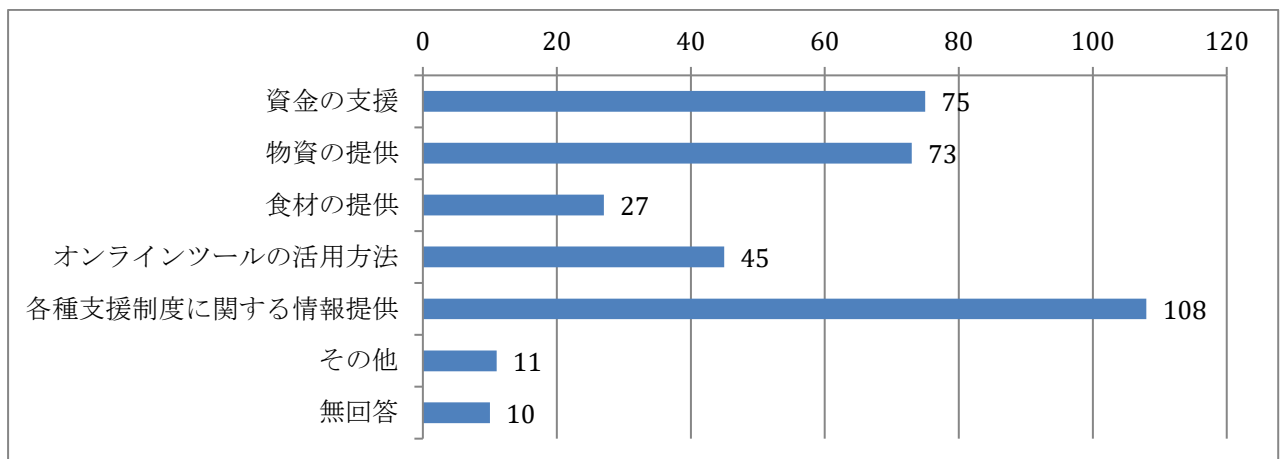
【NPO・地域づくり支援】 月5万円（1件） 10万円（1件） 15万円（1件）
 100万円（2件） 160万円（1件） 200万円（1件）
 500万円（2件）

- （その他）
- ・数字に置き換えることが困難
 - ・カフェの補助金月1万円も出ないし家賃3万円と光熱費等自主事業は閉鎖にしないと厳しい

●3. 現在、法人や団体で新型コロナウイルス感染拡大防止のために、どのような対策や工夫を行っていますか？（複数回答可）



●4. 必要な支援策について、当てはまるものを選択してください。（複数選択可）



その他の回答

- ・ どう対応すべきかのマニュアルのひな形がほしい
- ・ 広々とした会場借用できればと存じます
- ・ マスクの在庫が無いのでマスクの支援を

●4. Q5-2 具体的に希望する支援策があればお教えてください。

※活動分野ごとで列記

【健康と福祉】

- ・ マスクや消毒薬の供給、収入の減収への対応
- ・ アルコール消毒液が不足している為、提供して欲しい。
- ・ マスクや消毒液、手袋などが不足している
- ・ 衛生用品（マスク、消毒液）の提供
- ・ マスク、消毒液などの提供
- ・ マスク、消毒液
- ・ マスクと消毒液の補充
- ・ マスクや手指消毒等の配布
- ・ マスクなど感染防止物品
- ・ 【物資の提供】 マスク・アルコール消毒液など
- ・ 事業収入が減少した際の補助
- ・ 国民に対する生活支援 世帯ではなく個人に対する金銭的な支援
- ・ 利用者さんが安全に利用できるような方法の指導、それに対する費用の補助がほしい。
- ・ 休業となった場合経営に直結するため、補償がないと事業の継続が困難
- ・ 当該事業所の利用者及び職員に新型コロナウイルス陽性が確認された場合は事業所の閉鎖もやむを得ないと考えています。閉鎖すると収入はありませんが、職員の給与、法定福利費等の支出は必要です。その収入に代わる支援があれば安心です。
- ・ 施設維持に係る費用の補てん
- ・ 消毒液が少なくなってきました。4月中はなんとかかなと思います…防護服が欲しいですね…もしものために…
- ・ オンラインツールを活用して、障がい児者またはそのご家族のお困りや相談の情報収集ができる支援策を希望する
- ・ ふるさと納税 CSO 指定を緊急事態だからと言って、その寄付金を他団体（災害支援団体）に振り向けられては困る。どこも危機的状況なのに、目立った災害支援をすれば何でも優先されるということになってはいけない。寄付金交付要綱要綱 8 条（3）の適用は絶対に許されることではない。どこの CSO にも平等に接していただきたい。
- ・ 高齢者や障がい者が家にいても何かすることを指導してほしい。
- ・ 新型コロナウイルスにより失業した方の人材斡旋（職員が足りません）
- ・ 今回 A-PAD ジャパンさん、フードバンクさんを横のつながりだけでいただきましたが、たぶん行政が届かない末端のところまで多少なりとも届けることができたように思います。
- ・ 特になし

- ・がんサロンにおける相談業務も将来的にはオンラインによる Web 相談が増えてくると予想しており、この機会を利用してオンラインサービスの機材の提供や技術指導が受けられるとありがたい。
- ・なし
- ・マスク、消毒用アルコールなどが手に入るようにしてほしい
- ・厚労省からの通達文をわかりやすく説明してもらい、助成金等該当の可否教えていただける支援があれば助かります。
- ・消毒液・マスク
- ・なし
- ・コロナの早い終息。

【災害・復興支援】

- ・消毒液、マスクなどの物資が足りない、運動低下が心配される方への対応についてのアドバイス、インターネットなど IT の利用に明るくないご高齢の方々への情報発信など、相談できる窓口があれば、多くの団体も利用できるのでは。
- ・民間のウェブ会議ツールを利用検討しているが、全員が対応出来る端末を所持していないので、この期間内でいいので端末を貸し出せるシステムがあれば良いと思う。
- ・特にありません
- ・マスクの材料(ガーゼ、サラシ、マスクゴム、ウーリースピンテープ、ミシン糸、個包装用ビニール袋、セロテープ)調達が個々のグループではなかなか困難なので力を貸していただきたい
 または材料購入、送料などの支援
 消毒液、漂白剤、使い捨て手袋、手洗い洗剤などの支援
 集まらないから、個別に支援に回っているが、ボランティアにもマスクがないとまわりにくい

【社会教育】

- ・まだ任意団体の為に、団体として借り入れも出来ないのも金融を紹介していただきたい
- ・アルコール消毒の確保 オンライン会議/講演/授業などのインフラ整備
- ・Q5-1に記載済み
- ・マスクを持参していない受講者に一人一枚配布できたら幸せです。
- ・学校からの講座がいただけるようにそして教育プロジェクトとして、学校への応援をよろしくお願い致します

【文化・芸術・スポーツ】

- ・オンラインツールを活用できるデバイスがある人/ない人、一人で web 会議システム (Zoom, skype, ハングアウトなど) をセッティングできる人/できない人の差があり、複数人で遠隔会議等するためのガイドラインがあればと思います。
- ・①マスクとアルコール消毒剤(手指タイプとスプレータイプ)などの支給
 ②新型コロナウイルス終息後の活動支援(支援制度や助成金制度、活動告知の協力など)
 いざ終息しても、確実にお客様が戻ってくるとは限らないので、終息後の支援体制を整えることも考えてほしい。”

- ・特になし
- ・コロナが収束さえすれば特に問題ありません
- ・資金調達の方法
- ・昨年からの災害が続き、ふるさと納税が伸び悩みました。もちろん、災害支援は大切なことですが子どもに関する芸術文化や健全育成にも寄付金が入るような対策をお願いしたいと思います。
- ・わかりません。
- ・初めてのことなのでわからない。
- ・シニア応援企画を考えた私が悪いので仕方ないです。ボランティアは出来ません。
- ・任意団体の継続に必要な資金の援助

【子育て・教育】

- ・webを使った授業もしたいが、持っていない生徒への支援が課題になる。
児童クラブに、非接触型体温計を導入してほしい。(母体提案はしたが)。団体として、支援するには、資金がない。
- ・行政からの委託料がカットされ、職員の給与に影響が出ている。助成金等の情報がほしい
- ・休校しても学力、体力が落ちないような自宅学習の充実。(タブレット学習を早く)
社会体育や部活動、習い事の禁止。観光施設、居酒屋、ボーリング場、スイミングクラブなどの運動施設、美容室などの閉鎖をして補償してほしい。
福岡県などの流行地から、佐賀に来ている。クラスターが発生するのが目に見えている。
保育園、学童保育は基本的に閉鎖。どうしても勤務しなきゃいけない方だけ許可制で運営。
デイサービスなども基本的に閉鎖。外出を8、9割減らすように徹底指導を！！
若者と高齢者に効果的な媒体で、外出自粛を周知徹底させてほしい。
アルコール消毒液・マスクの供給
- ・マスクの不足。手作りマスクの製作も行っている
- ・マスク・消毒薬の入手。特にマスクは不足しているので、早く通常通り循環提供できるようにしてほしい。
- ・マスク・消毒用アルコール等の感染症予防のための物資支援をお願いしたいです。
- ・現在活動を休止しているので、現時点ではありません。
物資：マスク・消毒用アルコール・ハンドソープ（資金があっても購入できない現状がある）
情報：消毒薬がない場合の消毒の仕方・何にウイルスが付着するのか・手指以外の消毒した方がいい物等々の情報。
- ・まだマスクや消毒液が足りていないのが現状です。お店やインターネットでは購入できない状況が続いている為、行政、NPO 法人からの備品支給に頼っている状況です。
- ・施設退所者に送る支援物資と送料の補助。特に支援物資はマスクや消毒液以外は自分たちでも集められるが、送料が大きいので支援があると嬉しい。
- ・施設を退所した若者への支援物資の確保と送料の支援。特に支援物資はマスクや消毒液以外は自分たちでも確保できるが、送料は負担が大きい。
- ・今回は、おかげさまで他の保育園等に少しですが支援をできています。
- ・今後、梱包・配送やフードバンク活動での人の集まりや、個別の家庭訪問の衛生管理を徹底していくにあたりマスクや消毒液が不足した場合に、これをもらえるかどうかの情報

- ・日々刻々と情報・状況が変わり、それに対応していると、支援を受けるための情報収集や事務処理に時間を割くことが難しいです。このアンケートに答える時間を取るのにも、苦労しました。やっと書いています。

【まちづくり・観光】

- ・アルコール除菌の確保・マスクの確保・資金調達
- ・①アルコール消毒液とマスクのストックが残りわずかである。
- ・②おばあちゃんの見守りが一番なので店を閉めた場合の支援が知りたいです。
- ・③カフェ部門でテイクアウトを考え中なので情報がほしいです。
- ・現在のところありません。
- ・事業に関しての固定費を補助してほしい。
- ・1. セーフティーネット保証等の金融支援（融資枠の拡大）
- ・2. 各種税金の免除または猶予（法人税・自動車重量税・社会保険料等）
- ・3. 雇用調整助成金の満額支援（10/10）”
- ・今のところ特になし。
- ・特になし

【環境保全】

- ・組織として、まずは職員や団体を守るために、何を考え何をしないといけないのか、最低限のルールづくりのマニュアルのひな形がほしい。
- ・収入源の確保が難しい

【暮らしの安心】

- ・活動再開した際に必要なマスク、消毒液等

【NPO・地域づくり支援】

- ・手の消毒液と活動中に着用するマスクがたくさん欲しい。
- ・ZOOMなど、オンライン会議ツールを無料で使用できるようにしてほしい。
- ・特になし
- ・テレワークに必要な機材・ツール・ソフトの導入支援
- ・マスクの配布
- ・マスクが足りません。ご家族の協力もお願いしていますが デイサービスではマスクをしっかりと着用してもらう事手の消毒部屋のかんきを徹底しています
- ・消毒液、マスクが不足
- ・資金援助

●5. その他、活動分野における新型コロナウイルスの感染拡大による懸念や気になること等をお教えてください。

※活動分野ごとに列記

【健康と福祉】

- ・マスクや消毒液がないこと
- ・感染拡大した時に、利用者様の健康状態確認

- ・感染拡大により事業所自体が休止し、利用者の支援ができなくなることを危惧する。
- ・正しい情報の周知・共有、一定程度の見通し
- ・マスクや消毒液などの支援、生活支援
- ・活動資金を佐賀県のふるさと納税 NPO 支援資金に頼っているので、景気の動向と合わせてふるさと納税が引き続き期待できるかどうか不安材料。サイトの増加により寄付の分散化や受益団体の増加や寄付全体の頭打ち傾向などによってふるさと納税そのものが楽観視できなくなりつつある中、コロナ騒動の長期化によって市民意識や社会の仕組みが変化することを恐れている。遺贈や休眠預金など佐賀未来創造基金さんの一早い取り組みに期待すること大である。
- ・独居老人や子どもがいる世帯などは食事に困っている。毎日のことだけに、工夫したり栄養が偏らないように食料品や食事を宅配するサービスを地域の自治体と NPO 法人が期間限定で取り組まなくてはならない事業と考えている。ただ毎月の同じ薬をもらうだけなのに、何時間も病院に待たされるのはコロナ感染の影におびえて精神衛生上よくない。そこでお医者さんが許す範囲で薬も宅配できればと考えている。
- ・運営資金・マスク・アルコールが必要
- ・正確な情報が迅速に提供されることを希望する
- ・感染拡大がどこまで広がって来るのか？どうやったら収まってくれるのか？地域の中で情報交換ができる体制作りが必要だと思います。SNS などを使いより密な情報のやり取りをしたいと思います。
- ・情報共有、適切な指示・指導、感染予防から感染拡大した場合の具体的な対応マニュアルなど。マスクや消毒液など価格が高騰していて購入困難な状況にあります。
- ・今後、感染経路が不明の感染者がでてきた場合、有償ボランティアの活動をどの段階まで続けられるか不安です。
- ・対自治体とのオンライン会議の推進
- ・終息が見えないのが一番の気がかりです。少しでも活動ができる方向性が欲しい
- ・大和町町内に発生した新型コロナの為、運転ボランティアがこわがって活動を中止した。又、高齢者が一部、患者と同一病院を利用した事で、不安がっている。今後のふるさと納税の減少が、来年の活動が縮小されるか懸念している
- ・利用者さん本人に認知症のためコロナウイルスへの危機感がないこと、また自分の施設で感染者が出たときの対応方法への不安。
- ・事業所から感染者が出た場合の事業所閉鎖を懸念しています。
- ・グループホーム内で感染が出た場合、他の利用者への感染防止策を知りたい。
- ・障がいや難病を持つ方々にとっては、感染しないか緊張感を持って生活されています。現在、なかなか簡単に病院にも受診出来ないの、医療関係、福祉関係と情報交換し、一日も早く支援策を考えて守りたいです。
- ・障害・高齢などで介護が必要、子どもが居るひとり親家庭など、介護者や養育者が感染した場合の支援体制。家族のキーパーソンが感染した場合に感染していない家族も命の危険にさらされる。
- ・基礎疾患を持つ利用者が感染した時の重症化
- ・高齢者を対象の事業所であり、地域での発生、感染拡大が不安である。感染拡大地域からの訪問を避けて欲しいし、住民が外出自粛を心がけて欲しい。
- ・地域での感染発生阻止、介護利用者、ヘルパーへの感染

- ・PCR検査の早期充実と陽性患者の隔離、隔離施設の確保
- ・医療的ケア児の介護者が感染した時の濃厚接触患児の預かり場所の確保
- ・（気になっていること）消毒・手洗い・検温は必ず実行してるがこれ以上感染者が多く出たら？家庭によっては、預けなければならない事情があり気になる。当施設内では、かなり高齢で疾患もある方がいる状態で毎日ピリピリしている。送迎時も気を付けている。
（地域で必要だと思うこと）行事は中止にする事。出歩かない。距離を取る（家庭）でも。皆な1人1人が身を守ることが必要不可欠と思う
- ・人と接さない(特に県外の人)、店も施設も一般家庭も来客を拒む(特に県外から)
- ・人との接触を極力減らす(利用者・職員共に。また、地域全般で)
- ・組織の拡大に伴う役職員のサラリーマン化が進み、NPOらしさが低下し、「なんとかしなければならない」というNPOとしての神髓低下に改めて気づかされた。
- ・いま地域で必要だと思うことは、強力な啓発です。選挙カーではありませんが、コロナ予防の啓発カーでも県内すべての校区単位で走らせたらいと思います。子どもたちにも聞こえるように、子どもたちの登下校の時間などに、いっぱい走らせて注意啓発を演説したら良いと思います。都市部でも自主努力のコンセンサスに頼る状況を考えれば、感染者が少ないうちにひたすら啓発に力を入れるべきではないでしょうか。
- ・コロナだけでなくいろんな災害対応を横のつながりでカバーできる部分があることをあらためて認識する機会。行政、民の力をより合わせる必要あり！
- ・当会の活動は日常生活の支援（通院・買い物時の外出支援）が中心であり感染予防の重要性は十分理解しているが、活動を中止するわけにはいかないことに苦慮している。
そのため会独自で、できる限りの外出の抑制方策や感染予防対策を文書をもって会員に周知して、必要最小限の活動に抑えている。
ほかに「居場所」の運営もしているが、これは休止している。
- ・①当団体の関係者の中から一人でも感染者が出た場合、事業所を閉鎖する事になると思う。
そうになったら端的に（日割りでしか給付金が入って来ないので）経営に影響すると思う
（今も、感染を恐れたりイベント中止などで利用者数が減ったりしている・今のところまだ多くはないが）
 - ②現に、下請け作業の量が減ったり食堂のお客さんの数がかなり減少し、利用者さんの工賃収入にも早速影響してきた。今後は益等心配です。
 - ③精神保健に関するイベント・会合や色々な研修会などが全然出来ずに話し（活動）が先に進まない
 - ④総会も文章でと考えている
 - ⑤20周年記念イベントもできるかと心配しています
 - ⑥地域で必要だと思うこと…情報共有。支え合いの精神でしょうか…
- ①に関しては、申請をすれば給付金が出ると聞きました。但し、いつまでとかがどうかは不明ですが
- ・このままコロナが続けば会が疲弊してしまうのではないかと。終息して会が落ち着いたたら、助成金等の申請をして研修会を開催したいと思います。

【災害・復興支援】

- ・この状況下、買い物弱者の方々が本当に必要なものを手にすることができない、ということについて買い物支援など考える必要があり、またすでにマスクの作成・配布などを地域の

方々と連携しながら始めているが、体制づくり（人の確保）などがこれからの課題。

また、飲食店などが軒並み経営が厳しい状況のため、経営に対しての支援が必要では。

- ・高齢の方々への正しい情報周知、移動支援（バス・タクシーなどで移動しないと買い物や病院に行けない方の感染予防をどうするか）
- ・終息がいつになるかによって再び災害（大雨災害）の時期になってしまう。
昨年出来た対応が出来ないと思われるので、その場合どうなるのかわからず不安である。
現時点ではありません。
- ・被災地の被災者さんが悩みごとや心配事を抱えても自分から発する場が少なくなり、こちらから変化を感じて、初期対応するチャンスがすくなくなっていて、ソフト面が心配
高齢者であしがない買い物難民が、佃煮や塩昆布、高菜づけなどばかり食べていて、血圧など体調が心配
病院に行くのもこわいと常備薬がないひともある
- ・今のウイルス感染拡大の状況の中、自然災害が起こった場合の避難場所等の確保が困難であり、今までの災害対策・対応だけではかなり限界があると感じている。改めて今回の状況を踏まえ、様々な災害への備えを整え、また市民一人ひとりの意識づけが何よりも大切だと感じる。

【社会教育】

- ・正直、活動が成りいかなくて来月には団体として存続させるか、やめるのか決断する岐路に立たされています。何か有効な方法があれば情報をいただけたらありがたいです
- ・起業家マインドの衰退 企業に対するリスクを感じる人が増えるのではないか
- ・感染対策に関する情報がまちまちで、どれを信じればいいのかよくわからないことが多い。
また、間違ったマスクの使い方をしている方をよく見かける。鼻に掛けていない、あごにマスクをしている、裏向きにマスクをしているなど。マスクの効果がいかほどかは分からないが、地域で正しいマスク使用方法の浸透活動も必要。
- ・NHK テレビのデータ放送のローカルニュースの内容が、定刻ニュース並に早く更新されれば良いと思います。

【文化・芸術・スポーツ】

- ・規模に関わらず県内事業者へのサポート。融資ではなく、支援金が望ましい。
- ・いつまで活動ができないのか見通しが立たないこと。毎年10件以上演奏依頼が来ていたが今年は今全くないので謝礼の収入がゼロになること。練習が出来ないので団費の減額・免除を希望する団員が出てきたので更に収入減
- ・行動の自粛に伴い、地域産業の減退を気になります。
- ・直接対面してやり取りすることが難しくなり、それゆえの行き違いが生じているように思います。感染リスクのない安心して活動する場がないことが気になります。
アクセスが容易なオンラインツールなどがあればと思いますが、そのための情報端末や環境、技術が誰にでもあるわけではない現状を考える必要も感じます。
- ・まずもって、会員の集合ができない
- ・活動再開後に、演奏依頼があるのか心配。機会を作って頂けるとありがたい。
- ・活動再開の目途が立たない。
- ・①他県からの往来を控えるよう、強くメッセージを出してほしい。

②マスク不足は重々承知しているが、マスクの義務化を推奨してほしい。

佐賀県は絶対数は少ないが、検査数が少ないだけで潜在的に感染している人は多いと思う。特に、隣県の福岡の拡大の仕方を見れば明らか。唐津と福岡は通勤、通学圏内でもあり、その他施設を使用するために来唐される方も多いため、マスク無しの方は正直気になる。

- ・ 田舎にあっては対岸の火事程度に考えていましたが、佐賀県も患者数が2桁になり、全世界に広がっている昨今、人ごとではなくなってきました。まずは個人個人が感染対策を熟知して、心がけた行動を行うことが必要だと思います。練習は3月より休止しているのですが、団体としては何もしていません。見えない敵なので防ぎようがないですが地域にあっては極力集団行動を避けてなんでも自粛する意識も持つべきだと思います。
 - ・ 外出禁止しかないと思う。
 - ・ 会議等はとりやめ文書連絡にしてほしい。芦刈音頭保存会はコロナ流行が終息するまで会や活動を中止します。
 - ・ 今年がコロナ問題で開催できなくなることで、来年以降が資金や人が集まりにくくなったりしないか心配
 - ・ 8月に公演を延期しましたが、現状が続けば、中止に追いやられることもあるのではと懸念しています。
- また、学校は休校が続き、子どもたちが、家庭で、どのように過ごしているかが一番の心配事です。
- 一日も早く、新型コロナウイルスが終息し、学校が開校し、練習が再開できるのを待っています。
- そして、子どもたちの元気な姿を見たいと願っています。
- ・ 人命にかかわることなので、事業よりも安全・安心。
 - ・ 気になっていること小城市で1人でも感染者がでたら、公共施設等の利用ができなくなるのではないかと気にしている。小城市で感染が広がり、50人でたら公共施設の利用中止等の基準が必要。50人以下では、施設利用者10人以内は利用可等感染者 50人÷小城市の人口45,000人=0.1%、1,000人に1人 その1人は病院にいる。小城市で少ない感染者の場合、その人達は、病院等に隔離されているので、私達が感染者に会う可能性はきわめて少ない。3密、マスク等の対策があれば公共施設の利用を可となるようにしてほしい。
 - ・ 終息の目処がたつ、ワクチンや薬ができる等の事がないとどうしようもないと思います。
 - ・ 期限の見えない状況で先行きが分からず不安。継続会員の獲得の困難と意識の低下が心配である。

【子育て・教育】

- ・ 武漢肺炎が終息するためにも、早く治療薬（アビガン等）を見つけて欲しい。
- ・ 生徒達からの要望で4月から活動再開したものの、今後また休止した場合、個別対応も無理になってきた場合が出てくる可能性もあるので、webは必須になるのでは？
- ・ 児童クラブに、これない子ども（登録していても）がいる事も事実です。お弁当を作ってもらえなかったり、送迎が難しかったり。課題はあります。
- ・ みんなで集まることは、しばらく自粛と思っているけれど、これからの課題はなにかをこの時期によく整理して、新しい居場所の作り方を模索していきたいと思う。
だれかがひとりぼっちで孤独でいないように。
- ・ 誰もが感染し得るし、感染源となり得ることを自覚し行動すること

- ・正しい情報の共有
- ・育児に悩んだり疲れを癒しにサロンを利用されていた子育て中の皆さんが家の中で今どのように過ごされているか気になります。
- ・人々が分断されていきそうで、怖いです。弱い立場の子どもたちに、そのしわ寄せが来そうで心配です。
- ・放課後等デイサービス内では、3密の状態がどうしても起こります。その中で、どう感染を予防するのかを常に考えております。
現実的には、密状態を解消するのは難しいです。放課後等デイサービスの援助では、密でないと障害児童に伝わらないことも多く、マスク着用も苦手なお子さんは使用できません。室内換気を徹底して行い、空気清浄機の導入はおこないました。手洗い、手指消毒、検温、細かくお茶を飲む等も出来る限りの対策は行っています。
事業所を一時閉鎖する事は考えていませんが、スタッフ、利用者周辺の感染者が出ない事を祈るばかりです。
事業所を利用出来なくとも、家庭訪問等で、利用者支援に繋がりたいところですが、事業体の体力が無いと継続できません。スタッフ数も足りていない状況です。
用途を限定しない支援金がもしあるのであれば、助かります。
- ・福岡など流行地との行き来を禁止してほしい。
- ・佐賀が福岡県のように感染爆発になったら、医療崩壊になる。最悪の事態を考えてほしい。
- ・店を閉めてほしい。空いていたら行く人がいる。防護服、マスク、消毒液などを手に入れて、医療従事者を守ってほしい。国からの指示待ちじゃなく、佐賀県として、率先して対策を講じてほしい。
- ・経営者の方々には出来る限り在宅勤務を推奨して頂き、本当に保育が必要な保護者（ライフラインに不可欠なサービス提供者）以外のお子様のお預けは出来るだけ自粛して頂けると現場としても助かります。
- ・学校が休校になっても、町中や商業施設内で学生を見かけます。
また、弟妹児の送迎に休校になっている兄姉児が普通に園内に入ってきます。
注意喚起はしていますが、何のための休校かを理解する必要があるのではと思いました。”
地方ということもあり、まだまだ一般の方の意識が低いような気がします。年配の方々の寄り合い等の中止やマスク着用の徹底をお願いするようなチラシ配布などを考えてみてはどうでしょうか？
- ・イベント再開がいつになるのかということ。
- ・乳幼児への対策が、置いていかれているように感じています。
小学校以上が休校になる中、より抵抗力・免疫力の劣る乳幼児は保護者の就労に配慮されなんの話題にもなりません。保育士、保育教諭、幼稚園教諭等のみなさんは本当に頑張ってくれていると思います。
もちろん看護師、医師、行政の担当者の方々の頑張られているとわかっています。
もっと、保育士、保育教諭、幼稚園教諭等を応援してください。乳幼児の命を一生懸命に守っています。彼女（彼）たちを守ってあげたいです。行政等に忘れられているように感じます。
コロナもそうですが、世界規模で広がる未知のウイルスへの対応、物資の確保体制を私たち自身がしっかり考えないといけないと思いました。

当園では、今後感染症等へのリスクを考え、通常の災害用の備蓄に加え、年に数回に分け、感染症予防のための物資の確保（半年分）をするようにします。そして、保育団体にも呼び掛けたいと考えています。

一つの国（中国）だけに生産を集中させている社会も今後しっかり考えてほしいと思います。

- ・当団体は、子育て中のママたちが孤立しないような活動を行っています。
この度の、感染症ということで、「鳥栖市子育て支援センター」は閉鎖になっており、こんな時こそ密に支援してあげたい気持ちでたまらないのですが、事務所は狭く「3密」状態に確実に なります。
スタッフまたはママたちの誰かが感染しているかもしれないので感染拡大防止とのジレンマで悶々としています。
- ・4月より活動休止を利用者にお伝えしたが、「週一回の息抜きがなくなるのは大変ですけど、頑張っ て乗り切るしかないですね」と子供達だけでなく子育てしているお母さん達の憩いの場でもあるのを考えると早く再開した方がいいのか？再開するのをいつ頃にしたらいいのかと悩んでいます。
- ・当教室としては今後の教室再開のメドがたたないことが一番の問題です。当教室は日本語指導のために市町の公民館を使用させてもらっていますが、感染症防止対策の定まったガイドラインがなく判断が使用者側の感染防止対策に委ねられており、使用に際しての判断には難しいものがあります。さらに市町サイドがガイドラインを作成するにしてもかなり難しいと思われ ます。それに外国人生徒の勤務している会社側の事情、例えば感染者が出れば仕事に支障が出る状況にあつたりなどこの様な突発的な感染症の場合はいつ頃収束するのかとか、特効薬とか確認検査が簡単に出来、教室全体が陰性を判明できるといった具体的な事案がなければ再開が できないとおもわれます。オンラインでの授業にはネット環境の整備や、生徒の日本語の理解力、レベル等の問題があり、やはり対面式の授業に頼らざるを得ない現状があります。従って今はじっと嵐が過ぎ去るのを待つしかない状態です。
- ・不足物資等提供し下さる団体・個人はいらっしゃるが、各地区で待っている方に届ける団体が少ない。危機感の温度差の違い。まだまだ、私事になっていない人、自分は罹患しないと思っている人がいること。
- ・この春から新生活を始めた若者、フリーターの若者などが公的な支援策を利用できず困っている。
- ・今は、一日も早い終息を願うばかりです。それには一人一人の手洗い、うがいや不要の外出を控えることだと思います。そして、皆さんとオンラインなどでつながることのできる場ができたらいいなと思います。

【まちづくり・観光】

- ・日々の感染対策が優先で、活動には参加が減少するであろう。
- ・小城市はまだ幸いにして発症していないのですが、出た場合にデイケア、ショートステイがストップすると聞いているのでそれが怖い。
- ・国としての方針をしっかりと示していただくこと。それに伴った地方行政の方針を示して欲しい。
- ・世界恐慌までとは言わずともコロナ感染拡大によるマクロからミクロまで甚大な被害が拡大しつつある中、これからも起こるであろう見えない敵（ウイルス）との戦いにはこれを

契機に国も県も市町村も医療体制の整備、安心安全で健康的な生活に最低必要なセーフティネットの構築にこそ年度々の予算を組み戦時中の軍需産業ならぬ医療産業、福祉業の起業に取り組み、人々のくらしの安心を提供する仕組みづくりこそ急ぐべきと考える。密室（密閉）ではない野外活動はどのような基準によって制限（自粛）を要請されるのか知りたい。

- ・ マルシェの開催、さつま芋苗の植え付け等、人が集まるイベント開催の可否判断
 - ・ いつまで援助、補助があるかの不安。
 - ・ 町の各産業が衰退し、税収が減少すれば、当然補助金の減額がなされることになり、協会の運営が厳しくなると思います。
 - ・ このまま続けば
 1. 会員事業者の倒産または廃業
 2. 従業員の解雇
 3. 事業規模の縮小
 4. 生活交通の維持継続に支障
- 新型コロナウイルス終息後の需要喚起策
1. 学校休校やイベント自粛中止となった行事開催のための補助金の創設等”
- ・ 新しい施設のため観光として県外からの来園も少なからずあること。
 - ・ 今はただ首をすくめ自身はもとより、地域の誰も感染させないよう出来る限りの注意をしている。手洗い液やマスクが足りなくなりそう。
 - ・ 新型コロナウイルスの長期化による市民生活全般の停滞

【環境保全】

- ・ まだまだこれからどのような状況になるのか不明です。情報に踊らされずに、落ち着いて行動をしていきたいと思っております。通常であれば総会終了後（6月上旬）に賛助会員費のお願いや寄付のお願いを地元企業さんにしておりましたが、どの企業さんもいろいろと影響が出てあり、依頼がしにくいですし、お伺いもしにくいなと思っております。年に1回の顔を合わせる機会でしたが、今後タイミングを見て行きたいと思っております。また、当会としても早い終息を願うばかりではなく、何ができるのか考えているところです。
- ・ 今後もイベント自粛等による減収が予測されるが、労働者には契約どおりの賃金を支払えるよう、各種支援制度の情報を収集して活用していきたい。
- ・ 屋外での少人数での活動を、今後どのように継続していくか。
- ・ 感染が収束し、講演会、野外学習・研修が再開できることを願っています。
- ・ 活動の縮小
- ・ 現時点ではわからない
- ・ 不特定多数の親子連れが見えますので、マスク着用、消毒液の準備をしていましたが、開催場所が使え無くなって お手上げ状態です・

【人権・平和・国際協力】

- ・ 今回、タイ福岡領事館より、タイ住民にマスクを提供したいと申し出があった。適切な提供方法は？ 日本人メンバーから不満は出ないか。
- ・ 外国人は職場や地域でも弱い立場におり、支援情報も入りづらい状況にあるため、近所か

らの情報提供や、仕事が休みになることでアパートなどに孤立してしまう可能性もあるため、近所とのつながりが必要だと思います。

- ・感染収束の為の活動自粛
- ・今後 2, 3 ヶ月継続して自粛要請となった場合、海外での事業が継続できなくなる恐れがあり、その場合は人件費等運営にかかる費用が捻出できない可能性がある。

【産業・労働・科学技術】

- ・人と人の接触を 8 割削減するためには、すべての企業の停止、外出禁止を徹底するなど思い切った施策が必要。そのためには、企業、生活者への資金提供についても思い切った施策をスピーディーに行うことが重要である。あとは走りながら考えることが必要である。
- ・農産物の生産者としては、自粛における農産物の消費減少を危惧している。その一方で、現在取り組んでいる無人販売という形態は、人との距離を置く必要があるコロナ対策としては理にかなっていると思うし、ニーズがあると思う。

【暮らしの安心】

- ・コロナウイルスに対する危機感を個人が強く意識する事が必要だと考えます。

【NPO・地域づくり支援】

- ・市民活動プラザには感染リスクの高い方が多く利用される。閉館が望ましいのかもしれないが、高齢者等は対面が多く、オンラインツールの利用についてハードルも高いように見受けられる。
また、行政や地域に目を向けると生活、経済をどう維持するかが最重要課題となっており、この期に市民活動どころではないという状況も垣間見る。市民活動としてもいかにして経済に貢献できるか課題である。
- ・地域での支援活動や今後の CSO 支援の方策などが見えていない
- ・収束の見込みと、我々が取るべき行動方針等のガイドライン
- ・特に若年層へのコロナに対する正しい情報提供と啓発。商業施設やゲームセンターに集って騒いでいるのを見かけると不安になる。
- ・今後の対策など
- ・有効なワクチンが出来るまで感染拡大は止まらないと思う。とにかく、地域、個人が 3 密を避ける行動をとり、できるだけ感染拡大速度を遅くすることが必要。
ただ、マスクが大幅に不足している状況を早く解決して欲しい。”
- ・患者発生 の 現状、発症した場合の地域ごとの対応方法の図式化。
- ・いつまで続くのか、わからないことが困ることです。依頼主は年配の方が多く組織が多く、コロナ騒動がひと段落しても、前の状態には戻らないだろうと考えています。
- ・多様な CSO ネットワークのフルタイム情報共有認識強化と具体的な取り組み今、なにができるかの模索など
- ・私たちの活動は自主活動なので無理な活動は、しないことにしています。一日も早い収束を望みます。
- ・自宅待機や休業による自宅での生活が、これまでの日常生活の延長として、活動できるような新しい生活環境の創出
- ・クラスターの発生

- ・デイサービスで感染者がいつ出るかとても神経質になっている。また、病院支援付き添いが怖い。
- 小さな事業所は地域がまた、行政がいざとなったら本当に守ってくれますでしょうか
- ・団体から感染者を出したくないので、予防の一環として毎日の検温と行動履歴記録を取ることを実施している。検温と行動履歴記録は予防への注意喚起になると考えている。

<総評>

今回の緊急アンケート調査の回答から、3月から現状までのCSO（市民社会組織）の経済的影響をみると、全分野の幅広い業種で9割以上がなんらかの影響があるとしていて、特に事業を実施している障がい者、高齢者をはじめ、指定管理者としての施設管理等を実施している団体には委託や補助関係の減少傾向をはじめ、利用者減少等による大きな被害状況が地域を問わずに現状の傾向と今後のマイナス影響としてあると考えられる。

また、研修やイベント、会員活動などの集合型の活動を重視している団体などは法人格の有無に関わらず、本質的な活動の意義が果たせず大きな被害を受けていることが明らかになった。特に活動自粛はCSOの自発性やコミュニティを大切にするというCSOの特性からも本質的な活動の在り方に大きな影響があり、活動のカたちを変えていかざるをえないと思われる。

加えて、中間支援組織などの支援をする側の疲弊も大きく危惧される場所である。

各分野の行政制度の行き届かない隙間の支援をしているような団体やCSOそのものを繋ぎ支援する団体にも影響があることも明らかになり、現状維持や、今後の中長期的な立て直しを考えたときにもソーシャルセクターの状況としてはかなり厳しいと考えられる。

このような状況下では、もはやCSOの自助努力だけでは限界があり、資金支援や環境整備等の公的支援は必要性を増している状況である。

今回は3月からの初期の団体の状況であり、かつ、約200件の回答を得たが、400を超えるNPO法人や1,000を超えと言われているCSOの母数から考えると一部分にすぎない声ではあるが、ある程度の現状と傾向が掴めたことが大きな収穫だったと思われる。

アンケート回答結果の記述までを細かく分析すると大きく分けて「医療福祉」や「こどもや教育」「地域づくり」分野においての「資金不足」「マスクや消毒液の衛生用品を含めた物資の不足」「オンライン活用方法のノウハウ」「支援制度などの情報不足」「雇用や人材確保（離職）」「ボランティア参加機会の消失」「活動自粛による制度外を含めた多様な住民サービスの低下」「会費・寄付・協賛の減少」「対価性が低くても必要性の高い委託や自主事業の継続不能」などの自由記述が多かった。

全体的には衛生面での緊急的な支援をはじめ、中長期化することが予想されているなかでの経済的なダメージは深刻で基盤が脆弱ながらも志をもって活動をしている地域の担い手が減少、または消失することの社会的損失は大きく、また、一度なくなってしまうと、その特異性からなかなか再度立て直したり、新たに生まれることが難しい活動も多いので、単に、組織がなくなるということではなく、その団体のサービスを頼っている地域の多くの方々の行き場やセーフティネットがなくなる状況をなんとかして止めなければならないと思われる。

また、理事会・総会の時期での感染症対応ということもあり、組織運営や経営や事業判断が伴うような機関決定が遅れることでの対応の遅れや急務であるオンライン化への不安、そして、感染症対応という特殊な状況下で余裕がなくなり孤立化していくなか、支援情報などが獲得しづらいことも現場からの多くの声としてあがっていた。

「緊急事態宣言」が全国に広がるなか休業要請や今後の収束が見えない現状を考えると5月以降もマイナス影響が大きくなるのではないかとの危機感を強く感じている。

地域社会の困っている方々を支えるCSOの存在がコロナの影響を受けて、自粛やサービスの低下や減少をせざるをえないなかで、活動停止状態に追い込まれると、小規模の事業者も多く立ち直りが難しい状況になることが予想される。今後の収束までの見通しが立っていない現状では、時間の経過とともにさらに悪化していきマイナス影響が顕在化してくことが懸念される。

医療や福祉の充実や地域社会の根本を支える社会基盤である。それを支えるのがCSOであることから、学校・家庭支援や、学童やこどもの居場所なども、今後は、自宅での自粛により、子どもやご家庭の社会的孤立による様々な社会課題が心配されている。

地域社会の生活様式が変容する中で、ICTの活用や市民活動をはじめ、事業者や医療福祉などの在り方を考えて、地域で循環、完結できる仕組みをはじめ、このような状況だからこそ助け合える関係性を大切にしていってCSOの役割は大きいと考えている。

ぜひ官民協働で、①人的支援②資金的支援③物資支援④ノウハウ支援⑤支援制度等情報支援の5つの支援策に加えて、ふるさと納税寄付やCSO誘致団体との更なる連携など佐賀県独自の支援策を開発していく必要がある。

感染の影響化で持続するための資金提供などを含めた支援や支援制度の拡充への要望と情報提供、そして活動を実施するうえで感染しない衛生面やICTを活用した環境整備のうえでの活動ができる支援が益々必要になってくると思われる。

現在、医療、福祉、経済などの多くの事業者が影響を受けている状況下で、それを実施または補完する役割であるCSOにも多大な影響が広がっていることが今回の緊急アンケートで浮き彫りになった。

継続的に状況を見ていく必要はあるが、上記に記載した現状の対策と今後の中長期的な支援策をスピーディーに官民協働で行うことが期待されている。

「命」を守り、持続可能な「地域社会」、そして、当たり前の日常を取り戻すために、この国難ともいえる状況を地域社会の皆の力を合わせて乗り越えていきたい。

最後になりますが、この緊急アンケートを実施するにあたり佐賀県の県民協働課をはじめさが創生推進課などの行政機関、県内中間支援組織や分野の支援機関の皆様に広報のご協力を頂きました。

またこのような大変な状況のなかにご協力をいただき回答してください皆様改めて感謝の言葉を申し上げます。

公益財団法人佐賀未来創造基金
理事長 山田健一郎